

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500118		
法人名	社会福祉法人もろ栄福祉会		
事業所名	グループホーム鶴の郷		
所在地	栃木県鹿沼市茂呂字極瀬243-8		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様の自主性・自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで、生きがいを感じて頂き、『もうひとつの我が家』と思って頂けるようなグループホームに努めている。 ・ご愛用の家具等をお持ち頂き、慣れ親しんだ環境作り(和室・洋室を希望等により選択して頂く等)を行っている。 ・日当たり良い中庭のウッドデッキにて外気浴や運動・散歩等が気軽にできるように、日々の楽しみを感じて頂けるような場所としている。日当たりの良いリビングスペースを中心に各居室を配置している。 ・昔を思い出して頂ける環境整備をしたり、季節にちなんだ掲示物を作ったり、季節を感じていただける物を飾ったり、楽しみをもって頂ける空間作りにも努めている。 ・ユマニチュードの技法を取り入れたケアを行っている。また、その他の研修、勉強会にも積極的に取り組み、職員へのケアの向上にも取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>季節の行事やイベントを多く取り入れ、夏祭りには、地域住民、地元ボランティア等たくさんの参加があり、地域との交流を大切にしている。コロナ禍であっても、密を避けて利用者と職員だけの夏祭りや、毎月、誕生会、クラフト作り、ひな祭りなどの小さなイベントを行い、利用者が生活を楽しめるよう工夫している。居室に面した中庭では、お茶会、もちつき、野菜や花を育てるなど、利用者の憩いの場となっている。広報誌や事業所ブログを活用し、利用者の生活の様子を伝えたり、事業所を知ってもらうために積極的に情報発信している。フランス発祥の認知症ケアの技法であるユマニチュードをいち早く取り入れ、県の「キラキラ介護事業所グランプリ」で受賞するなど先進的な取り組みを行っている。居室は、和室か洋室を選択でき、慣れ親しんだ自宅に近い環境で生活できるようにしている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 3年 11月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員掲示板や会議等で伝えていくことで全職員が理念を理解し、それに従って目標やケアを行えるよう、毎月の目標や委員会目標等を設定し、実践している。	「誠の絆」という法人理念を基に、法人の年間目標設定、事業所ごとの月間目標を設定している。月間目標は、グループホーム会議において職員全員で振り返りと次月の新しい目標を設定している。目標の設定及び目標達成に向けて取り組むことにより、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策にて地域や外部との交流する機会は控えております。	コロナ前には、事業所主催のお祭りに、よさこい等地元ボランティアを招待するなど積極的に交流を図っていた。小学校の校外学習に利用者が出向くなど子供達と触れ合える機会を設けている。地域住民から野菜や米のおすそ分けがあるなど日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している『鶴の郷便り』の認知症についての項目において、地域やご家族様へ認知症への理解をして頂ける様に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や施設での取り組み状況報告等を行い、民生委員の方々や家族様代表者よりご意見を頂き、ケアの参考にさせて頂いている。	運営推進会議には、家族代表、民生委員、市介護保険課職員の参加があり、2か月に1回の開催を基本としている。民生委員の在宅高齢者との関わりをケアの参考にしたり、市からの介護サービスの現状の話や家族代表の意見・要望をサービスの改善・向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市町村担当者と連携を取り合い、サービス向上に努めている。又、運営推進委員会に出席をして頂き、運営状況や取り組み内容等に関して報告し、相談やアドバイスを頂いている。	市介護保険課担当者は、年度で固定されており、報告、相談しやすい環境ができています。運営推進会議以外でも、困ったことを対面、電話等で気軽に相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ委員会による拘束に対する取り組み、勉強会による知識を全職員に伝わるよう周知し、実践している。又、『言葉により行動の制限』については、毎年取り組み課題として行っている。自己振り返りチェックシートを年2回実施し、ケアの改善につなげている。言葉づかいの適正に関する評価基準も掲示している。	法人合同の身体拘束ゼロ委員会での取り組みを、ミーティング等で全職員共有に努めている。毎月の身体拘束に関する勉強会やマニュアル制定により、職員は身体拘束にあたる行為を正しく理解し、身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催の身体拘束ゼロ委員会に出席し、勉強会に参加している。その後、グループホーム会議等で勉強会を実施している。又、高齢者虐待に関するチェックリストを全職員が実施し、ケアを見直すことで虐待が起きないように努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、成年後見人制度について学び、実際に成年後見制度を活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすく説明する様に心掛けている。また、安心して過ごして頂くためにも不明な点に関しては、いつでも問い合わせ頂ける様にお話し、納得して入所して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限中のために病院受診時に気付いた点を話して頂ける様な機会を設けている。少しでも利用中の様子等をお伝えし、コミュニケーションを図ることで要望等を聴きケアにつながるようになっている。又、運営推進委員会に家族様代表者が出席して頂き、ご意見を頂いている	運営推進会議、面会、病院受診時等さまざまな場面で、積極的に家族に要望を聞くように努めている。運営推進会議の家族代表は固定にせず、その都度声掛けして多くの家族等が意見が出やすいようにしている。リハビリを増やすなど具体的に家族等の要望を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談等にて意見等を受ける機会を設けている。また、アンケート等や意見箱により、職員の思いや考えが把握できるように努めている。提案書にて書面での要望等も職員より提案できる体制をつくっている。	月1回の全体会議や年2回の面談、提案書で要望を出してもらったり職員が意見を出しやすいよう努めている。置き菓子の設置や利用者が法人の洋服移動販売を利用できるようにするなど、具体的に職員の意見が反映されている。職員が上司に提案や相談しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、面談等を行う事で個々の目標設定や現状把握を行っている。また、相談等をいつでも受けれる様にし、職員の勤務に関する不安解消や向上心をもってもらえる様に努めている。2021年3月には、とちぎ介護人材育成認証制度で三つ星を獲得した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会には、リモート研修にて積極的に参加できるように努めている。又、施設内研修として、グループホーム会議にてテーマを決めて、取り組んでいる。定期的に参加し、ケアの向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種委員会での同法人他施設職員との交流を、各種委員会、各種勉強会にてサービスの向上に努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者への思い、発言、動作等については、より注意深く観察し、コミュニケーションを行い、迅速に対応できるように心がけている。また、入所前、入所後にもご家族からの情報を得られるように、こまめに連絡を取り合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前での在宅サービスや入院中での様子等を調査し、入所後に大差ないサービス提供が図れる様に努めている。又、お会いする機会には職員側から声を掛けたり、利用者様の様子をお伝えしたりと積極的に交流を図る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査を踏まえて、最善な選択となるように慎重に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の個々の性格や状態を見極め、今までの生活の延長として行える事が継続できるように、レクリエーションや家事等を中心に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症拡大していたが、家族様との絆を大切にするためにも、早急にリモート面会の準備及び設置をした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの築き上げた事や生活が継続される様に支援している。	コロナ前は、行きつけの理容室や、馴染みの方の訪問、墓参り等ができるよう支援していた。理容については訪問により対応している。コロナ禍でも家族の要望には柔軟に対応しており、家族・親戚との新年会に利用者が参加できるように、事業所の場所を提供するなど配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活という面において、不安や淋しさを出来るだけ感じさせないよう職員が適宜間に入り円滑に関係を結んでいる。又、利用者様が密に関わる機会を提供している。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も安心して、暮らせる様に、積極的に家族様等と話すことで、不安なく生活できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えや生活歴、ご家族の声を大切に考え、ミーティングや担当者会議でも職員間で適宜話し合い、意見を出し合いながら本人が何を考え、望んでいるのかを探りつつケアをしている。	入所時に本人や家族から、本人の生活歴を丁寧に聞き取り、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、利用者が興味を示すようなものを提示しその反応によって本人の思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの訴えや生活歴、ご家族の声を大切に、今までの生活が継続できるよう個別に対応(環境等、時間の流れ等)している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックに始まり、レクリエーションや家事を中心として出来る事への声掛けを行い、退屈と感じる時間が減るよう努め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議やモニタリング、アセスメントの実施により把握している。ご本人とのコミュニケーションからや、家族様には現状等の確認を行いながら、要望等を確認し安心して生活して頂ける様に援助内容の検討をしている。また、ユニットミーティングでは、シートを活用して入居者様の現状確認等をしている。	介護計画は6か月ごとに、また状態に変化があった時にも見直しを行っている。6か月の中で、モニタリング、アセスメントを各2回きめ細かく行っている。本人の基本情報、現状、留意事項を記したシートを活用し、ユニットミーティングで話し合いを行うとともに、家族から出された意見・要望を介護計画に反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列で状況が把握できるようにしている。また、毎月評価シートを記入し、プランの実施状況の把握に努め計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとって、何がベストかという視点で、状況に応じてグループホームだけにとられない対応を心掛けている。病院受診付き添い・訪問歯科や訪問理容室を実施し、歩行等の移動動作が難しい方への対応も行っている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医での受診が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される病院での受診を原則として、日頃の状態を詳しくお伝えするようにしている。	家族の付き添いによるかかりつけ医の受診が大半であるが、家族の協力が難しい場合は、職員が対応している。家族に、受診内容や薬の変更などをお薬シートに記入してもらい、受診結果を共有している。家族が付き添う際に、利用者の普段の体調などを口頭または書面で伝え、スムーズに受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面については看護師と連携を図り、安全第一を考えたケアに取り組んでいる。また、かかりつけ医とも連携できるように努めている。病院受診が難しい方には、家族様とも話し合い訪問診療にての対応も行い、連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院でのムンテラに参加させて頂き、常に病院の担当者と連絡を取り合い、できる限り早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り委員会への毎月の参加により、職員の知識を深めたり、重度化した場合の今後の対応についてもご家族と話し合いを行っている。	重度化した場合の方針を、入所時の説明や、本人の状態に応じて、随時家族と話し合いをしている。職員体制の整備や、訪問医療・看護機関の協力が得られれば看取りを行っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、周知を行っている。また、法人や施設内で定期的に行われる救命講習やAEDの使い方等の研修にて、具体的な対応方法が身につけられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防立ち合いの避難訓練・通報訓練・消火訓練(夜間想定も含む)を定期的に行っている。また、災害時に備えた計画及び訓練も行っている。いざという時の為に、地域の民生委員への協力もお願いしている。災害時のための非常食等の準備もしている。	避難訓練には夜間想定も含め、毎回消防署の協力があり、水消火器や火災受信機操作の指導を受けている。避難訓練に参加できなかった職員にも必ずミーティングで報告し、情報を共有している。非常食や水など3日分の備蓄や、自家発電、毛布を備えている。	緊急時の民生委員のスムーズな連絡網の整備と、災害時に民生委員にどのようなことを協力してもらおうのか具体的に話し合って協力を得られるように期待したい。

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	拘束褥瘡ゼロ委員会内で、声掛け、言葉遣い等の対応を適宜見直し、良い対応の仕方を学んでいる。また、トイレや入浴等、最もプライバシーな部分については羞恥心に十分配慮したケアを行っている。	法人の拘束褥瘡ゼロ委員会で勉強した内容をミーティングで報告し、全員での共有に努めている。トイレ誘導は耳元でさりげなく声かけを行い、プライバシーに配慮するようにしている。重要書類や個人情報、施錠するなど管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人が選択できる声掛けを行い、少しでも入居者様自身が決められる様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ミーティングや担当者会議により、また日々の職員間での相談にて、常にご利用者の状況把握を行い、それに応じた生活ケアが行えるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの趣味や好みを取り入れ、その日その日のご本人の声を聞き、本人らしい服装等が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事全体を通して、何らかの役割がもてる様にも努めている。嗜好確認を適宜行い、食事中の些細な会話などでご意見などを聞きながら、献立作成を行っている。	委託業者に食材購入と昼食・おやつ作りは依頼して事業所内で作っている。朝食と夕食は職員が作り、香りや音など五感の刺激を大切にしている。おかゆ、きざみ、とろみなど利用者に合わせて提供している。手作りおやつ、外食、季節の行事食で利用者が楽しめる様支援している。残存能力を活かして利用者は下膳やテーブル拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や摂取量を把握し、その方に合わせた提供方法を検討している。楽しみのひとつでもある食事なので、できる限り嗜好に合わせてられる様に努めている。水分摂取も食事同様に嗜好等を確認し、摂取量確保が出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、必要に応じて一部介助を行っている。また、義歯の不具合があった場合には、直ぐに、ご家族へ相談させて頂き対応している。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご利用者個々のタイミングで声掛け、誘導を行い失禁を減らして、トイレでの排泄ができる様に努めている。	排泄チェック表による排泄パターンの把握や、しぐさの観察により声かけし、日中は全員がトイレ排泄である。声かけのみ、座るまでの介助、見守りなど支援の仕方は、利用者の状態に合わせて変えている。リハビリパンツやパットを活用し、おむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や活動量確保を図る事を第一に考えて対応している。牛乳等の提供により、できる限り、下剤等にたよらずに対応できるように心がけている。少しでも無理なく活動する機会の確保に努めている。又、毎日希望者は乳酸菌飲料を飲用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定としては、ご利用者の要望等を確認して、日にち等を決めているものの、その日その日のご利用者、ご家族の状況に応じて入浴できるように対応している。また、夜間浴にも対応している。	週2回から3回、入浴時間は午後がメインだが、希望者には夜間入浴も対応している。ゆず湯や入浴剤の活用により変化をつけ、入浴が楽しいものになるよう工夫している。1対1で介助し、同性介助希望者にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、日中も短時間の臥床対応を行ったり、生活リズムに配慮しながら、無理なく活動と休息が行えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や副作用等を確認し、内服方法や服薬時の注意点をシート化し、服薬時の対応方法が統一できるように努めている。又、薬の使用目的や副作用について確認できるように個人ファイルに記載事項書類を添付し飲み忘れ等がないように徹底管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の行える事への家事参加を促したり、それに対してのお礼や褒める声掛けをしっかりと伝えることで、喜びややりがいに繋がる工夫をしている。お菓子作りや季節に応じた行事などを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策に気を付けながら、少しでも気分転換ができるように、同法人で行われた、衣類販売に出かけ、好きな衣類を楽しみながら選んで購入している。	季節の桜や多気山のあじさい、道の駅や、買い物などに出かけたり、帰省や外泊などをする利用者もあり、一人ひとりの希望に合った支援をしていた。コロナで外出困難な状況でも、ドライブ、法人の衣類販売、中庭での外気浴で気分転換できるよう工夫している。	

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを職員が理解し、同法人などで行われる衣類販売、また施設内で行われたパン販売を利用させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、職員仲介にて家族様に電話ができる様に支援し、年賀状や手紙などで外部との交流が途切れない様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい空間作りに努めている。また、季節に合わせた室温管理や掃除等での環境整備にも努めている。季節を感じられる雰囲気や、天気がいい日には、中庭のウッドデッキでお茶を飲んだり、草花や野菜を育てて、楽しみをもって頂ける空間作りも行っている。トマトやピーマン、なすを収穫し、その日の食事で頂いた。	リビングなど共用部分は毎朝職員が清掃し、清潔に保たれている。室温、照明も適切に管理されている。換気、手すりやドアノブの消毒を徹底し感染症対策に努めている。中庭は、ひなたぼっこやお茶を飲んだり、野菜の栽培や収穫ができ、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ベンチや和み間等、少人数でも過ごせる空間を設け、リビングの座席については、その日の状況により柔軟に対応している。新聞を1人で読むスペースや何人かで座れるベンチも設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきたタンスや椅子等、馴染みのある家具でお部屋を設置したり等で、ご本人の過ごしやすい方法で対応している。又、写真やレクリエーションで作成したクラフト等も飾って、居心地良い空間作りに努めている。	居室は和室か洋室を選択でき、慣れ親しんだ自宅に近い環境で生活できるように対応している。家族写真を飾ったり、テーブル、椅子、使い慣れた小物を持ち込み、居心地のよい空間作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のトイレには、それぞれ分かり易い大きさの文字で示し、状況によっては居室内に貼り紙を貼って、場所の把握等が出来るように工夫し、自立した生活ができるようにしている。		